

特集
GENTLEMAN of KOBE



M. ISHISAKA

絵一石阪春生



神戸のおしゃれ紳士をさぐる

ミナト神戸は来年で開港百年をむかえます。そのむかし幕末から明治にかけて歴史はその流れを大きくかえしました。徳川三百年間の永い眠りから醒め、勇躍として世界へ羽ばたいてゆくこうとする夜明けのとき。

日本の服装史のうえからもまた、洋装がとりいれられた見逃すことのできない時代。平安時代の「雅び」を今に残す和服から、活動的な洋服へとときり

かえられたのは、女性よりも男性の方が一歩さきにすすんでゆきます。

そして、洋服の普及に一役かっただの。兵隊さんと官員さん。

慶応四年、はじめての兵庫県知事となった伊藤俊輔、のちの博文は、ときに洋行帰りの二十七才で、花隈の吟松亭に住んで切戸町にあった果庁に通いました。

彼は大変なハイカラで、チョンマゲ姿の時代にいち早く散髪して四分六

にわけた頭を光らせ、蝶ネクタイに上仕立ての服をめかしてこんでカッポし、町の人びとから「坊主奉行」とよばれていました。博文の在任期間は一年余の短かいものながら、開港そうその神戸のために尽力し、そのハイカラ振りて身をもって文明開化の意気を示しました。

それと対照的なのが勤皇の志士坂本竜馬。彼は志士たちの中でも身なりをかまわぬ方で、和服とヨレヨレの袴大きな洋靴をはき、袴のヒダなどいっこう気にもとめなかつたといわれ、高知桂浜に立つ彼の銅像も大きい白石

にゆつたりとよりかかったポーズで、沖合はるかに黒潮の流れる太平洋を静かに眺めやるような双眸が印象的。外形よりも内面の充実をこそ求め、するどい直感力とあけっぱなしの誠実さ、実践力のたくましさでその天衣無縫の個性を生かしたものだといえましょう。

「ザンギリ頭を叩いてみれば
文明開化の音がする



「僕の魁」から、当時の元町の姿

と、うたわれた散髪廃刀令が出されたのは明治四年。しかし、一片の紙きれだけでは父祖伝来のチョンマゲ頭を誰もすてようとする者はなく、開港以来、外国人の居留地となって西欧の文化・流行が早く移入されハイカラなムードをもつ神戸の町でも、チョンマゲを切る者はなかつたのです。日本ではじめて洋服を着たという神戸っ子も散髪令にはイササカ、とまどっている様子が目に浮かんでくるでしょう。

この当時のおしゃれというのは、今日でいうおしゃれとは少し意味あいがちがいが、ハイカラ、といったほうがいいでしょう。西欧から入ってきた新しい流行、珍らしいものを他人にさきがけてとりいれ、身につけることがすなわちシャレッツ気のあることとみられる風潮でした。ですから、明治四年に神戸の北風家がビールを一樽かきもとめて一家で試飲したというのも一種のおしゃれでしょう。なお、これはビールが飲まれた最初です。

YAMATOYA SHIRT CO.
Trade Mark

紳士シャツ専門店
大和屋シャツ
三宮センター街 33-6956



神戸ではじめてモーニングを着て、葉巻をくゆらし、おおいに新しいところをみせた神田兵右衛門は、よくやくの思いで切り落したチョンマゲをピンつけて固めて保存。明治十二年に開かれた県議会には藤田積中と二人で洋服姿で出席したため、他の議員たちはこの二人の珍妙な格好に気をとられて議事が進行しなかつた、というエピソードもあります。新旧ふたつの面をあわせもつ明治人らしいシャレット気をもつていたのでしょうか。

一般に洋服が普及しはじめたのは明治も中ごろのことで、ザンギリ頭の気恥しさをかくすためにも帽子が大流行。画家小磯良平氏の父、小磯吉人も新しい男として、ハイカラで知られもっぱら自分自身のおシャレよりも洋服の普及に つとめ、夫人にも神戸ではじめて洋服を着せて束髪を結わせたりしています。

神戸海運界の元老で、のちに第五次吉田内閣の農相となつた内田信也は超一流品しか身につけず、花限の「常盤花壇」の座敷に舞台をつくり、芸者五百人に役をつけて出すなど、豪勢なの一語に尽きる遊びを楽しんでいます。また、松方コレクションで知られる松方幸次郎は毎朝、花限から二頭立ての馬車で朝帰り。気に入りの妓と相のりして自分で馬車を御するなど派手な噂をまいています。

このようなおシャレを裏側からささえたのは中国人の器用さで、洋服になれず仕立のできない日本人にかわつ

て、おおいに力をつくしています。

神戸の洋服の仕立てのよいことはよく知られ、スキップス・ウォース・ハンモンドのカベルジュ商会（オリエントルホテル前に大正のころまであつた）は、明治三十九年、市川左團次が欧米旅行にでかけるときにわざわざ東京から出むいて洋服の仮縫い、帽子、靴、手袋など一切をここであつらえて神戸港から出発した、ということ

で名をひろめました。スキップスは仕立ても定評がありました。明治四十年ごろに早くも後に箱のついた自動車を購入して、これに注文品をいれて配達するなどハイカラな神戸にふさわしい新しい商いぶりをみせていたもの。

幕末から明治と激動する時代を神戸に生きた人たちは、精神的にも鍛えられ、そのシャレット気においても今日からみればアツというほど思いきつたスケールで、自由奔放にT・P・O、T・P・Oとせまいワクにとらわれることなく、存分に自分の個性の、あるいは興のおもむくままに、そのおシャレを楽しんだといえましよう。



明治のシャレ男



幕末勤皇の志士坂本竜馬

O-SHIBATA



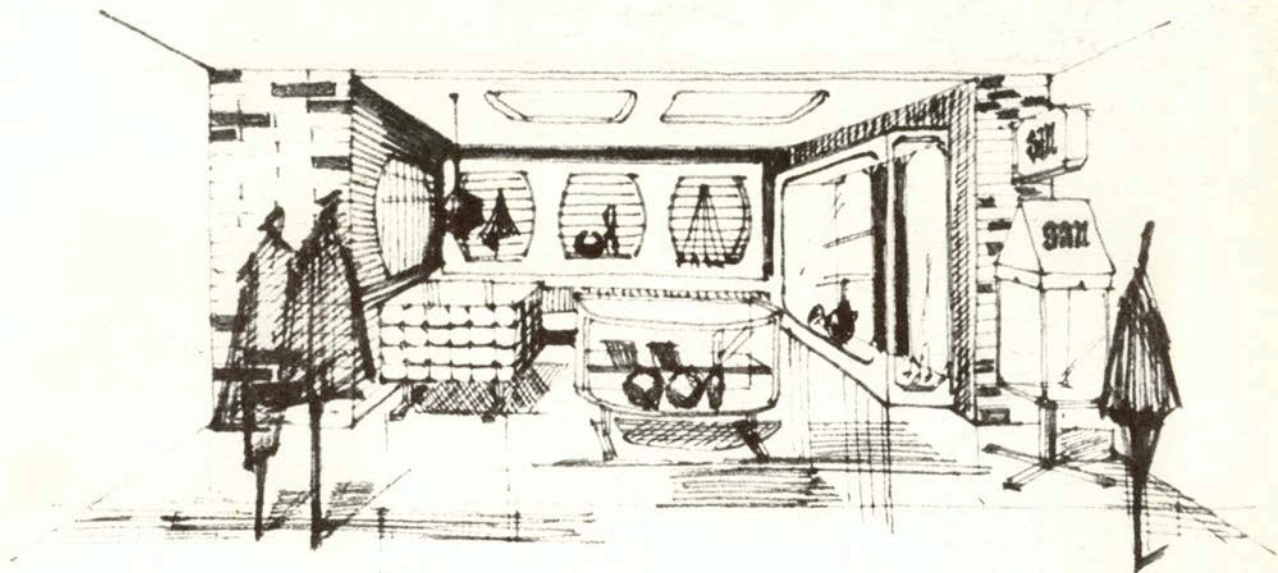
柴田音吉洋服店

神戸・元町通4丁目 神戸 34-0693
大阪・高麗橋2丁目 大阪 231-2106

英・仏ドーマル社日本代理店
柴田商事KK



9月1日 ← → OPEN!



エキゾチックなKOBE。百万ドルの夜景に輝やく港、日本のモードをリードする素敵な街。そのかたすみに小さく咲いた店《SAN》オリエンタルホテル地階に皆さまのいこいの場所として開店いたしました。ヨーロッパの逸品をあつめ、KOBEのユニークな店になるよう心がけています。ぜひ、ご来店ください。

SAN

ORIENTAL-KOBE

TEL <33> 8111(代表)



デンマーク



本社★神戸<22>2603営業所★東京・名古屋

トランスグローバル

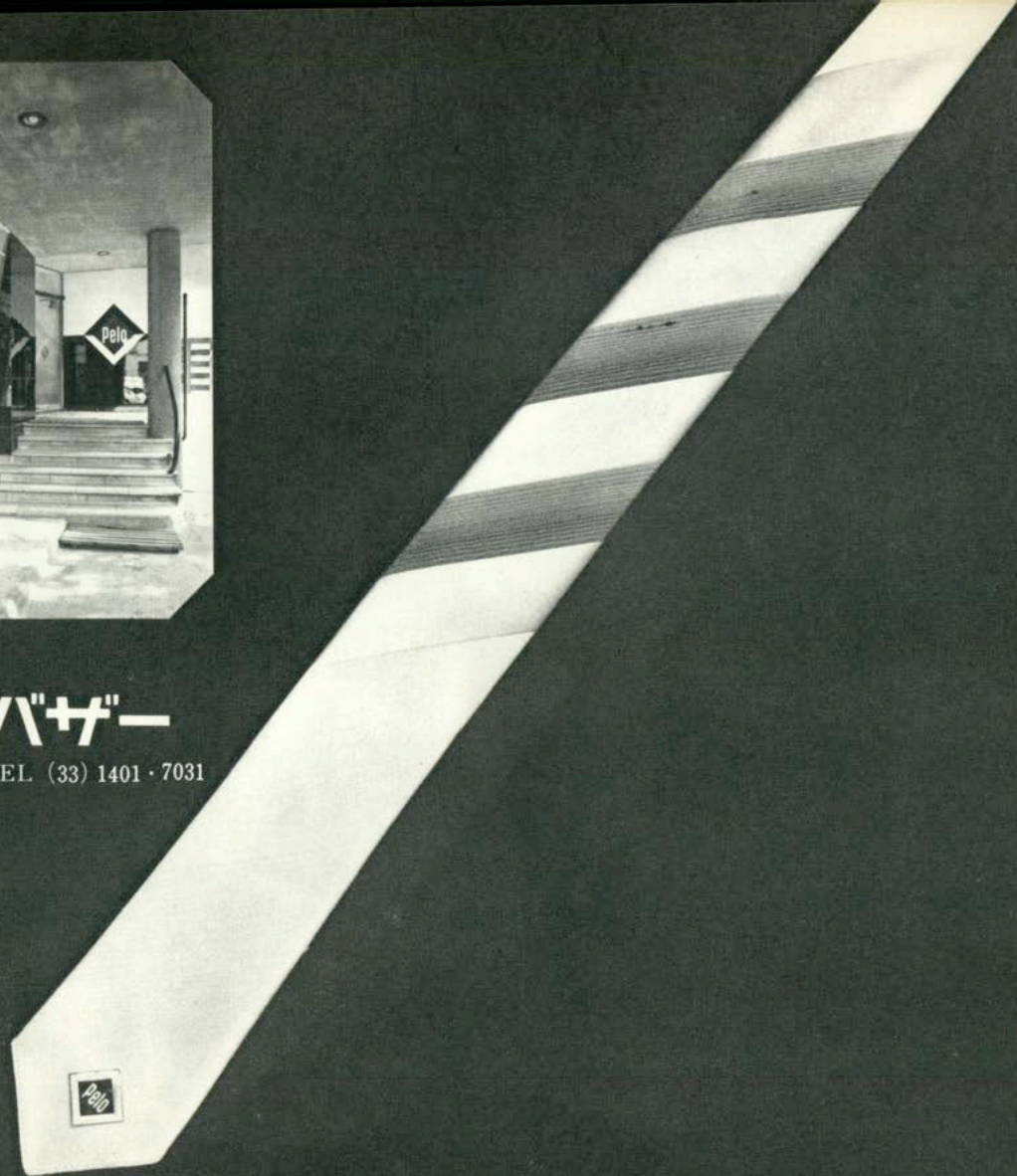
特約店★クロス★ア・ロード <39> 1781



ネクタイの

元町バザー

神戸×元町1丁目 TEL (33) 1401・7031





神戸のおしゃれ紳士をさぐる

神戸は明かるい町だ。いまさら神戸をたたえてみてもはじまらないほど、誰もが認めていてくれる。

町を歩くと、すれちがう人たちの顔には憂いの陰があまりみられない。毎日の生活が楽しくて仕様がないうようなほほえみである。

服装が明かるい。シックな男性たち。原色をうまくこなした装いの女性たち。

坂道に立って、オフィス街に立って、異人館の前に立って、

ちよつぱり気とってポーズしてもビタリとくる。

「神戸の人はおしゃれだ」「アカぬけしている」

人はよく神戸での生活をこう評価する。

神戸を舞台にくりひろ

げられる小説も多い。ヒーロー、ヒロインはみなスマートである。恋する町神戸、

特に服装がスマートで感じがいいともいう。たしかに町を歩いて感じるのはいしやれな人が多いということ。

経済、文化に躍動、発展する神戸にとっては、それであたりまえのことなのかも知れない。

しかしそれが非常にハイセンスであることには注目される。地方から神戸を訪れた人たちは口をそろえて、お世じでもなく、心から神戸のセンスをほめたたえ、その神戸のセンスを思いきり吸収して帰ろうとする。

このさわやかな環境の中で、生活全体から生まれ出た

おしゃれは特に男性の服装に多くみられる。

女性の色彩的にも年々特徴づけられて移り変わるその流行はめまぐるしいが、男性の落ち着いた雰囲気は、さほど差もなく、英国調ムードに加えて新しい若さが上品さをただよわせている。

男性のおしゃれと一口に言っても範囲は広い。ただ単に身を飾るとか、人とちがった格好をするとか、流行をとり入れるとかという意味のほかに、端正な装い、さらに清潔感という意味を含めて用いられている。



氏忠 崎部 岡安

しかしメンズファッション
 ヨンデザイナーの石津謙
 介氏は「個性的な服装を
 して自分を殺し、周囲の
 雰囲気にとけこもうとす
 るのが身だしなみである。
 身だしなみの基礎は服装

のルールを守ることであり、服装のルールの基本はTPOということである」と言っている。

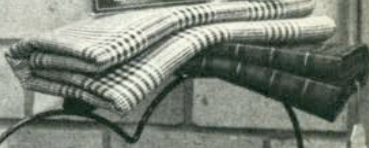
TPOということが今日、なにかといつては話題に出ることが多い。T、(TIME) D、(PLACE) O、

(OCCASION) の、いつ、どこで、なにを、着るかということだが、神戸の人たちは以前からごく自然に、しかもスマートにおこなわれてきたといえるのではないだろうか。その基調があるから他に侵されない独自のスタイルが神戸にはあるといえる。

神戸にはいつも、いいものを、売る店が多い、東京や大阪とくらべられても、材料、技術ともにけっしてひけ

SMITH & CO. WOOLLENS LTD. LONDON
“フィンメリン”
 英国スミス毛織社 日本総代理店
 SOLE AGENT-T. WATANABE & SONS LTD.

SMITH & CO.
 (WOOLLENS) LTD.
 LONDON
 CONNOISSEURS OF FINE



洋服ノ粹

渡邊

神戸店/三宮センター街 (33) 1650・6152
 東京店/銀座6丁目交詢社ビル (57) 2373・2637
 大阪店/北新地本通り (36) 5863・(34) 2378
 姫路店/十二所前町1番地 (23) 0688・8358

をとらない、その理由として、洋式文化をいち早く経験

したからだということが考えられる。しかし、他にくら

べて、その洋式文化によりよくなじみ、服飾業者と着る

人たちの研究熱心なところが今日の、神戸の人はハイセ

ンスだ」といわれる神戸の神戸たるゆえんであろう。

そこで三宮・センター街、元町の男子専科の店を訪ね、

ご主人に神戸のおしゃれ紳士を話していただき、神戸

のおしゃれ紳士」といわれる伝統的なユニークさがどう

して生まれるのかいろいろさぐってみた。

まず三恵洋服店(元町四丁目浜側)をたずねてみた。

この店はスポーティな傾向の商品がずらりとならば、比

較的芸能人も多いと聞いていた。

「関西芸能会長をやっ

ておられる漫画の都家文

雄さんなんかはやはりお

しゃれですわ。かなりの

年配ではあるけれどエン

チ系統の色がお好きで、

白のズボンをうまくはく

ところなんかいつまでも

若々しくて、すばらしいと思います。

上着は着ないで夏はポロシャツで通し、肥満体を感じ

させん人で目立つのは大江将雄さん(新芸座)ですな。

お二人とも十年來のおつき合いです、少しも変らん

ですよ。ご自分で独自の線を持っておられるわけです。画

家にベレー帽とよくいいますが、そのベレーをうまくこ

なししていきな感じをお出しになっているのが鶴尾芳雄さ

つぎに柴田音吉洋服店(元町四丁目浜側)を訪ねてみた

ここでは紳士服のきこなしについても聞いてみた。

「うちは神戸J.C.(神戸青年会議所)の方々も多いの

ですが、職業柄とはいいながら浅田長平さん(神戸商工

会議所会頭)なんかは、色も紺を好み、ときおりグレー

の濃い目のものを着られるなどしていつもキチンとして

おられます。同じ年配の方で佐野幸助さん(沢の鶴)は

反対に明かぬ感じのものがお好きのようです。佐野さ

んはカーマニアで、車に合ったラフな、レジャーウェア

が多く、ベントをあげ、ポケットをアウトにするなど、

ご自身の工夫が随所に見受けられます」。

おしやれば洋服だけでなく、個性あるバランスのとれ

た着こなしが大切であると話してくれた。

「そりや、なんといっ

ても神戸っ子はあたりま

夫隆 えのシャツをあたりま

芳奈 えのシャツをあたりま

林比 えてほしいですわ」と

小朝 強調するのは神戸シャツ



氏氏 夫隆 芳奈 林比 小朝

「ワイシャツのおしゃれといってもワイシャツだけで

はどうしようもない。上着の色、顔の色を考えて、色調

を整え、全体的なバランスをとることが大切なんじゃない

のですか。さらにご自分が着ることを楽しむ」とい

うのがおしゃれ紳士だと思えます。

機能性のあるソデにボタンを二カ所つけるなどしてい

る外山雄三さん(NHK交響楽団常任指揮者)は職業柄、

練習用と舞台用にと使いわけられますね。

この方おしやればシンフォニーのごとくハーモニー

しているって感じてすよ。職業柄といえは、常に最高の

服装をしていなければならぬ方として、つい最近舞踊

世界選手権で入賞なさった小島鉄治さん(アマチュアデ

ンスメダリスト)はいろいろ気を使っておられ、ご自分

いますか。



I love KOBE SHIRT !

紳士シャツ専門店

神戸シャツ

大丸前 TEL <33> 2168

*オリエンタルホテル・バーにて
右は岸ラヨン氏〈副支配人〉
左は神戸シャツ河端保氏

のボタンを楽しんでおられるように思います。

カメラの趣味を持ち、いつもノリのきいたシャツをつけ、香水をしのばせる。上から下まで好きのいおしやれだなあとと思われるのが小林義一さん（油脂商）。フィルムを入れるポケットを別に作ったりする工夫をなさっています。東京―神戸間を多く往復されて、シャツは消耗品なり。のお考えでおしゃれなざる方では内田享さん（ミツワ商事）。兄弟そろっておしゃれなのが、小曾根有さん（会社役員）TVの11PMでおなじみの弟の実さん（音楽家）。二兄弟です。

ワイシャツのエリ型を自分でデザインされ、弟の実さんは非常にむずかしいといわれる。ティーン・マーチン型のエリを着こなすというスマートさ。結局自分自身にマッチしたものを着るということではないかと思えます。

*

このあとバランスの点で服飾のABC、TPOについて次のように話された。

「服飾のABCは、A (Age) 〓 年令 B (Build) 〓 体型 C (Complexion) 〓 顔色が基調になり、TPO

についてはT (Taste) 〓 好み P (Personality) 〓 人柄 O (Option) 〓 選択 〓 という点でも考えてみることをおすすめします。」

ある神戸在留の英国人が話してくれた。

「私の国には古くから知られている英国紳士は今なおいるが、ピートルズのような若者たちのイメージがあふれている。英国紳士のいいところをうまくとり入れて、スマートな英国紳士はむしろ外国にいるんですよ。なかでも日本に多いと思う。それも神戸でかなり多くみかけられるんだなあ。」

なるほど、英国の紳士は古い英国調を堅持していて、

ちよつぱり古めかしい感じがする。そのスマートなところを上手にこなしているのが、神戸っ子紳士。というわけなのである。

*

そこで今度は渡辺洋服店（三宮・センター街）を訪ねて英国調紳士について聞いてみた。

ここではさきに話題になった小曾根有さんが昭和の現代派として再び登場する。

「近代センスの先端を消化して自分の服装を創る人として、服飾業者として楽しさと興味を湧かせてくれるのが小曾根有さんですね。古い服飾概念を打ち破る独自の意見を持っているという点で小林芳夫さん（兵庫県教育長）が有名です。小林さんは終戦直後神戸銀行副頭取の位置にあったとき、当時の乱れた衣料状況の中にあつて



氏 郁 氏 中 谷 氏 竹 新

いち早く従業員を整装に乗り出し、社内融資による背広制服を全店全員に着装させたという服装への見識を持ち、明治の正統派洋服通で衣服による信用を深めたというエピソードの持ち主です。ご自身でも度々の外遊で服飾のセンスはよく、さりげない着こなしは感心させられます。

武田邦夫さん（大阪音楽大学教授）は胴のしぼりなどにみられるアクセントのあるヨーロッパ風のたいへんユニークなスタイルで、若冠十七才のとき、すでにフールドレス、タキシードを悠々と着こなして活躍されていたこともあり、重厚味のある調和と音楽的なムードを持つ大正の紳士ですね。」と一気に話してくれたあと渡辺さんは神戸にゆかりの深い故谷崎潤一郎氏のことをなつかしそうに話してくれた。

「明治の高校生が着ていたマントをこよなく愛し、洋服も谷崎氏が加納町に住んでおられた頃からパターンが



靴のオーダーメイド

ヨシオカ

大丸前 TEL <33> 5190

安定しておられ、ミッドナイトブルーのダブルを着こみ、チョッキの背中に「カイロ」を入れるポケットを四段もおつくりになりました。ズボンのポケットは両ワキに二個ずつつくりたりしてね。」とおしゃれな谷崎氏のエピソードを語りながら「周囲の考え方にはまったく無頓着で、その洋服の持つ合理性と楽しさを味わっておられたようです。要するに服飾についても先生は、考え方がたいへん自由な方だったようです。」

さらに神戸の洋服が好きで神戸を愛する一人に高松宮様がおられることをつけくわえられた。

＊

「頭の先から足の先までキチンとしていて、一分のスキもない」というのはこの人のことでしょうね。一流のものを使っておしゃれだが、それが少しもキザでなくスマートですよ」
大和屋シャツ(三宮・センター街)の絶賛をあびるのは吉富周吉さん(バリオリン教師)。



氏 治 氏
鉄 治 氏
鳥 治 氏
小 麻 生 氏

「中村良知さん(市吏員)もおしゃれだなあ。特に誇張したところのない、なにげない着こなしと、仕事と遊びを完全に使いわけるのは現在よくいわれるT・P・Oをよく理解しておられるわけです。パー・キャンティの紳士夫さん。ひらき。の平木康裕さんなどもその個性を殺して体にマッチした調和のとれたおしゃれだなあと、いう印象を与えてくれますよ」

＊

次にヨシオカ靴店(大丸前)で靴のおしゃれについてたずねてみた。

「靴の場合は金をかけたおしゃれもあれば金をあまりかけないおしゃれがあるわけですが、どちらの場合でも靴をきれいに、大切にはく方がおしゃれでしょうね。」

しかしやはり洋服、ワイシャツと全体のバランスのとれたこなし方が大事なことでしょうね。紺の洋服にはいつもきまった黒の型をいうように基礎的な常識が必要というわけです。そういう点で小林義一さんはひかえめに目立たないおしゃれをなさる方ですよ。反対に人目をひくようなおしゃれだが、時計のバンドまで色調を合わせるという気のつけ方をなさるのが福井清一さん(福一KK)です。麻の服に白い靴、時計のバンドを麻製の白でそろえ、ステッキも数多く持っている方です。

藤本秀二さん(同和火災海上KK)はオーソドックスな装いで、しぶい感じのおしゃれです。小川嘉治さん(小川香料KK)は大胆、にいいものを好む方で派手目のものをすこしもはすかしがらずに愛用される方の方です。

もう一人永田正義さん(貿易商)は洗練された一本の筋が通った気骨あるおしゃれであるといえます。おしゃれというのは人に見せるんじゃない、靴の場合、きれいにはいて

大事にするということとは自分自身の心が豊かになるということです。

こう言われてはつと自分の足もとを見直す方はいますか?

＊

最後に、おしゃれのテクニクについて元町バザー(元町一丁目浜側)に聞いてみた。

「技巧派ではないおしゃれな人で永田良一郎さん(永田良介商店)、麻生・ジョージさん(田崎真珠)がおられますが、バランスのとれたキザでない着こなしに気を使っているのが最高で、三種の神器を持っているからといっておしゃれではないのです。そういうことからいって神戸のおしゃれは全体的にみて比較的バランスがとれ

From the red wood forest

to the Gulf Stream Water

This land is made for you and me

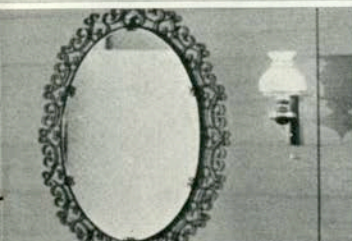


T·R—Three Ravens スリー・レーベンズ

T·S—Tiny Sparrows タイニー・スバローズ

K·G—K·G Folk Queltet K·G フォーク・カルテット

女学院) キクチ・ヨシヒロ<T·S 甲南> オオカワ・シゲル<K·G 関学> ウエジマ・タカオ<T·R 甲南> イシワラ・カズオ<K·G 関学>



BEAUTY SHOP

阪神美容室

川田つる美経営

大丸前 ☎ 6264

元町阪神地階 ☎ 5592

FASHION ACCESSORY

AKIRA

三宮センター街 ☎ 4895

おもちゃの店

カメヤ

元町通3丁目 ☎ 0090

元町通1丁目 ☎ 0768

三宮センター街 ☎ 4969

さんちかタウン ☎ 4045

紳士シャツ

大和屋のシャツ

三宮センター街 ☎ 6956

This land is your land

This land is my land

From California to the New York Island



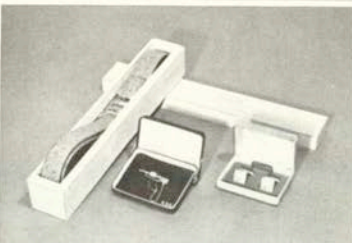
スイタ・ハジメ(T・R 甲南)

タダイ・ヨウイチロウ(T・R 甲南)

イワタ・ハジメ(K・G 関学)

クサカ・ユウイチロウ(T・S 甲南)

ヒダカ・マリク(T・S 神戸)



舶来服飾

マルエス

元町通3丁目 ㊤ 6541

カバンの店

大上靴店

元町1丁目 ㊤ 3962

さんちかメンズタウン 39の4627

男子洋品の店

フナキヤ

元町通3丁目 ㊤ 3617

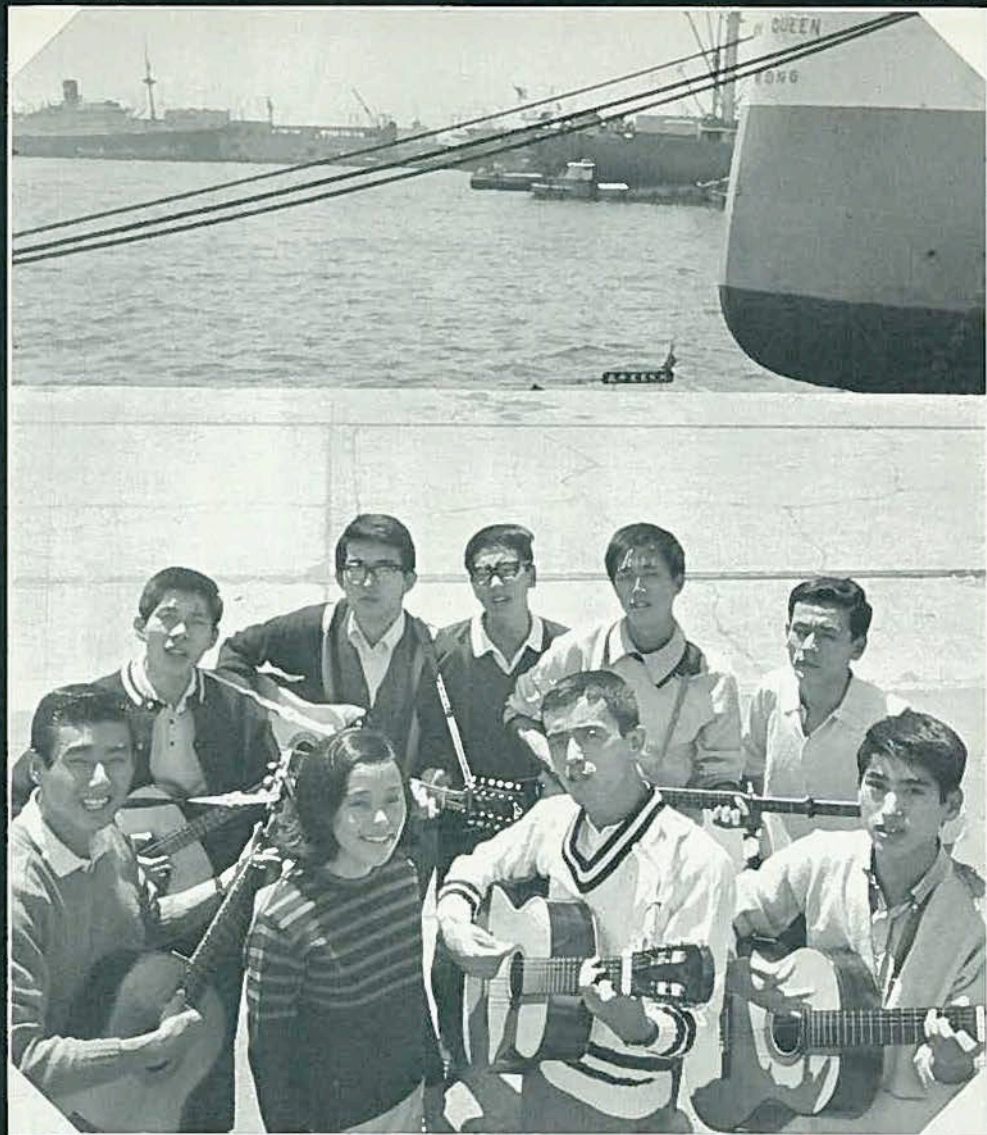
ACCESSORY SHOP

TAZU

太津

三宮本通 ㊤ 4780

世界のスポーツウェアマックグレガーの気品



The WONDER-FULL by **MACGREGOR** men's apparel **サカエ** 神戸元町 2 / 03 7835
サン

ていると思います。

おしゃれの平均点では神戸が一位ということになる。

*

さる八月二十七日御影の小原会館で催された文化人のつどい「8の会」でもおしゃれで名高い人たちが多かった。司会で大活躍だった詩人の竹中郁さん。赤のアロハを無造作に着てパミュエグシューズ。白のハイソックスに白い靴というロマンスグレーの竹中さんにふさわしいスタイルでしゃれ気たっぷり。TPOを考えた自然なおしゃれだろう。

もう一人は朝比奈隆さん(指揮者)。重厚味のあるいかにも音楽家らしい上品なムードをかもし出しておられた。一流の実業家のなかでおしゃれ紳士としても有名なのが安部正夫さん(オリエンタルホテル)、岡崎忠さん(神戸銀行)とならんで、

多く話題にのぼる人たちだ。

リラックスなスタイルで、自分の体型をよりよく

知って職業にあうものを好み着るといふ点でぴったりなのが、彫刻家の新谷秀雄さん。新谷さんとならんで体格のりっぱな人では光田顕司さん(神戸新聞)がいる。それぞれスポーツでならした堂々たる体格にあわせた外国人ムードのおしゃれ紳士である。



こうして各店を訪ねておしゃれ紳士についてお聞きして気づいたことは神戸のおしゃれ紳士といわれるみなさんは、それぞれの部門で一流の方たちばかりだということである。それも外国に滞在経験のある方が多いこと。体格はすばらしくりっぱで、日本人の標準より高いということなど。そしてさらにゴルフなどのスポーツで常に鍛えているということだった。若々しく仕事に対して非常に旺盛な意欲の持ち主ばかり。そればかりでなく人間味あふれる人格的にもりっぱな方たちであった。外国船の船長さんが神戸港に寄港すると待ちかねたように神戸で洋服をつくって帰るといふ。

*

神戸はハイセンスだといふことを伝え聞いたのだから、神戸っ子紳士のセンス有実の良さはどこへ行ってもは曾曾ずかしくない。このあらゆるものが豊かな環境の中で育つおしゃれ紳士はきょう

も町を歩き、仕事に縦横に活躍されている。

〔編集部〕





AAA

高級紳士服専門店

三恵洋服店

元町 4 丁目 TEL <34> 7290

グリーンが招く
ゴルフの好季!

MEN'S SHOP
セゾン

男子服飾専門店

千利庵

神戸元町4丁目 TEL <34> 6959